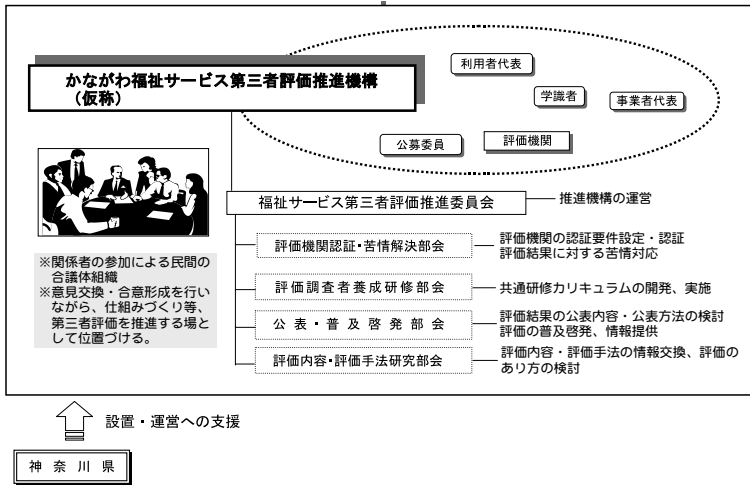
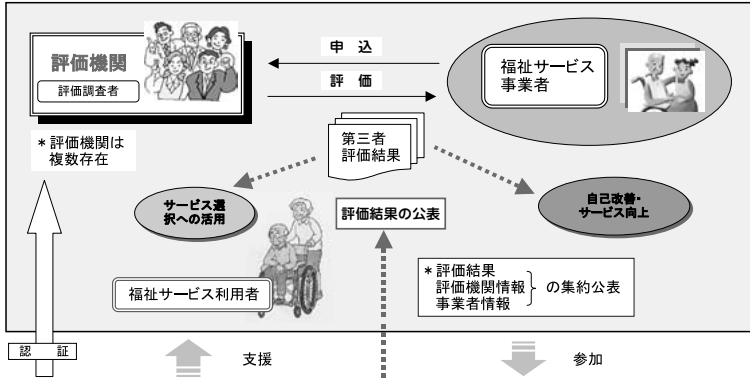


福祉サービス第三者評価推進のしくみ



県「福祉サービス第三者評価あり方検討会」の報告まとめ

本県における福祉サービス第三者評価の推進に向けて、昨年八月に設置された「県福祉サービス第三者評価あり方検討会（川廷宗之委員長）」では、この度、検討結果を報告書にまとめました。

報告書では、第三者評価の基本的な考え方や神奈川県らしいしくみづくりについて触れ、本県における第三者評価の中核的な推進組織として、「かながわ福祉サービス第三者評価推進機構（仮称）」の設

置を提案しています。推進機構は、第三者評価の信頼性を確保するため、評価機関の認証や評価調査者の養成等を担うとされています。本報告書を受けて、現在、本年六月を目途に、推進機構の設立に向けた準備が進められています。また、設立にあたっては、設立式典の開催が予定されています。◆本報告書及び設立式典に関するお問い合わせは、県地域福祉推進課 ☎045-210-4638まで

読者の声

—痴呆性高齢者とともに—

朝、顔を見るや否や「ご飯ちょうだい！昨日から何にも食べてない」と口にご飯粒をつけて話す方。「外が明るいのにもつたいない」と部屋中の電気を消そうとする方。そんな訴えに、「では板前に作らせましょう」、「自家発電だから大丈夫ですよ」と声をかけるのが、痴呆専門棟での私の仕事です。

一口に痴呆症といっても、脳血管障害（脳卒中等）やアルツハイマー症など脳の病気からくるものや加齢に伴う物忘れ、それらが併発した混合型など、原因により症状も違います。加えて、時代背景や人生経験、思い出などが症状に現れてくるものが多く、十人十色の痴呆症があるといえます。

「女学校の同級生なの」と突然他の利用者に紹介されたり、スナックの店員と思われ、「今日はママどうしたんだ？」と問われたりと、役柄は多種多様。「嘘も方便」と言いますが、痴呆の世界ではご本人はもちろん、私も若返ったり年をと

ったりします。それぞれの世界に生きる登場人物を演じるのは、簡単なようでなかなか難しいのです。そんな方々から、とても貴重な言葉を頂くこともあります。「裸足で歩いたら冷たいよ」「くしゃみしよるけど風邪ひいたんやないね？」「車いすに座るのがやっと、毎晩オムツを脱いでは大声を出している方なのに。その気持ちが嬉しくてお礼をいうと、「あたり前やないね」と当然の口ぶり。いくら自分が大変な状況でも、他人を思いやることができる。「もう生きとつても仕方ない。何の役にも立たんし」と言う方に、「いつもあなた言葉に救われているんですよ」と心の中で手を合わせる毎日です。痴呆の世界には、現代社会で失われつつある大切なものが、あたり前に存在しています。

（北九州在住 みよしるるみ）

▶投稿をお寄せください◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと